

深沢紅子（1903-1993）は、上京して岡田三郎助のもとで油彩画を学び、一水会展、女流画家展などに作品を発表するかたわら、戦前から訪れていた軽井沢をこよなく愛し、1964年から約20年間、堀辰雄1412番山荘（現在、軽井沢高原文庫に移築）を夏のアトリエとして使用し、浅間高原に咲く多くの野の花を水彩で描き続けました。本展では、深沢紅子生誕120年を記念して、深沢紅子が長年にわたり描いた野の花の油彩・水彩作品をあらためて一堂にご覧いただきます。紅子が野の花作品に込めた思いを感じていただけたら幸いです。近年、新たに収蔵された作品も含め、約50点を展観します。

思い出の花々

堀辰雄の山荘 つまり 軽井沢1412号 今は軽井沢高原文庫の後に移された家に
私は二十年程住んだが 其家の庭には 大きなアカシアの樹が 空間いっぱい
枝を広げ その下の そちこちに 何と言うことはなく やたらと野の花が咲いて
いた。

時々 北軽や 追分あたりから移植した ふしぐろせんとうや みやまははこなど
もあったが 大かたは いつの間にか ひっそりと咲いた花ばかりで 私は それ
を見つけては 描くことを 何よりの楽しみにしていた。

深沢紅子

『深沢紅子野の花美術館・軽井沢』図録 1996年



深沢紅子 「あさまきすげ」 1991年 水彩



深沢紅子 「ふしぐろせんとう・われもこう」 1991年 水彩

深沢紅子（ふかざわ こうこ）

1903年／3月23日、岩手県盛岡市生まれ
1919年／盛岡高等女学校卒業。

13歳頃から池田龍甫に日本画を習っていたため東京女子美術学校（現在の女子美術大学）日本画科に入学。

1921年／油絵科に転科。岡田三郎助に師事。

1923年／同校卒業。同郷の画家深沢省三と結婚。

1925年／二科会展に初入選。

1937年／第1回一水会展に出品。

1947年／第1回女流画家展に出品。

1949年／一水会優賞受賞。

1952年／一水会委員となる。

戦後、盛岡短大・自由学園等で美術の指導にあたる。

1964年／この頃から約20年、軽井沢の堀辰雄1412番山荘（現在、軽井沢高原文庫に移築）で夏を過ごし、高原の野の花を多く描く。また、戦前・戦後を通じ堀辰雄、立原道造、津村信夫ら文学者と交流し、本の装幀なども数多く手がける。

1980年／深沢紅子画業六十年展（岩手県民会館）

1985年／深沢紅子展 親しい人 優しいひとたち（日本橋高島屋）

1992年／深沢紅子野の花展（軽井沢高原文庫）

1993年／斎藤長三・深沢紅子展（練馬区立美術館）

3月25日、山中湖山荘にて死去。90歳

1996年／7月、軽井沢に深沢紅子野の花美術館開館。9月、盛岡に深沢紅子野の花美術館開館。

● イベント 「野の花さんぽ」 軽井沢タリアセン内 山野草ガイドツアー

軽井沢の自然の豊かさと、軽井沢タリアセンに残された里山を発見する「野の花さんぽ」を今年も開催します。自然観察指導員の案内で四季折々に咲く花や植物をさがします。

日時：2023年6月～10月の第4土曜日 各回 13:00～14:30 ※小雨決行

6月24日（土）、7月22日（土）、8月26日（土）、

9月23日（土）、10月28日（土）

料金：深沢紅子野の花美術館入館券（大人600円 小中学生300円）

定員：10名程度 ※要予約

ガイド：軽井沢サクラソウ会議・自然観察指導員

集合：当日、深沢紅子野の花美術館入館券またはミュージアムセット券ご購入のうえ、12時55分に深沢紅子野の花美術館までお越しください。

予約受付：電話 0267-46-6161 または FAX 0267-45-3663 までご連絡ください。

（予約は前日15時まで受付けております）



「野の花さんぽ」の様子 塩沢湖畔にて 2019.6.29

● 次回展示 10月25日（水）～2024年1月初旬 生誕120年「花筐（はながたみ）」展

深沢紅子野の花美術館

Kouko Fukazawa Nonohana Museum

〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町長倉217 明治四十四年館

Tel 0267-45-3662 Fax 0267-45-6466

<http://www.karuizawataliesin.com>

※展覧会およびイベントは、予告なく変更または中止する場合がございます。

